

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施				【Check】 評価 / 【Action】 改善															
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度		H28年度		H27年度		人件費(目安)		事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	H31年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数						
I-1-(2)-⑤ 子どもの特性を伸ばす教育の充実	1	博物館セカンドスクール事業	自然・歴史博物館普及	博物館を第二の学校と位置づけ、修学旅行・社会見学など学校教育の一環として、子どもたちの博物館利用の促進を図るものである。	学校団体誘致数	1,116団体(H24年度)	目標 1,200団体 実績 1,382団体 達成率 115.2%	1,200団体 1,320団体 110.0%	1,200団体以上(毎年度)	1,857	2,901	1,353	16,075	課長 0.05人 係長 0.50人	順調	来館実績に基づいた誘致活動を実施した結果、学校団体数・入館者数ともに目標を達成したため「順調」と判断。	順調	【評価理由】博物館の学校団体誘致数、学校関係入館者数及び文学館の入館者数がいずれも目標を達成しているため「順調」と判断。 【課題】博物館については、北九州市に立ち寄る修学旅行の学校団体の減少が見込まれるため、さらなる誘致活動の強化を図る必要がある。文学館については、更なる子どもの来場を促す仕組みづくりが必要となる。	博物館の理念に基づき、博物館を第二の学校として子ども達の来館機会を創出し、知的好奇心や学習意欲を高める役割を果たすことで、学校教育の充実と寄与していく。文学館についても、更なる入館者数の増加に向けた魅力的な企画を創出していく。		
	2	文学館普及研究費	文学館	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。	入館者数(単位:人)	10,741人(H23年度)	目標 22,000人 実績 24,743人 達成率 112.5%	22,000人 22,536人 102.4%	22,000人(H30年度)	18,624	18,628	17,668	12,625	課長 0.50人 係長 0.50人 職員 0.25人	順調	入館者数が目標を上回ったため「順調」と判断。					
I-1-(3)-② 家庭教育支援の充実	3	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。	朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合	小:93.0% 中:91.9% (H25年度)	目標 小:98% 中:97% 実績 小:92.5% 中:90.9% 達成率 小:94.4% 中:93.7%	小:99% 中:99% 小:92.4% 中:91.0% 小:93.3% 中:91.9%	小:100% 中:100% (H30年度)	9,473	7,111	7,307	9,150	課長 0.10人 係長 0.20人 職員 0.80人	順調	朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合は前年度とほぼ同程度で推移しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】成果指標については概ね横ばいで推移しており「順調」と判断。 【課題】核家族世帯や共働き世帯等、世帯構成の多様化により家庭教育学級へ参加できない保護者に対する学習機会及び役立つ情報の提供方法の検討が必要である。	核家族世帯や共働き世帯の増加等、子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化したことにより、事業の見直しを求める声が出てきた。そこで、「家庭教育支援プロジェクト」を立ち上げ、平成31年度以降の事業の見直しを検討する。また、子育てサポーター養成後、実際の活動につながるよう、市民センターや関係局と協議する。		
	4	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。	朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合	小:93.0% 中:91.9% (H25年度)	目標 小:98% 中:97% 実績 小:92.5% 中:90.9% 達成率 小:94.4% 中:93.7%	小:99% 中:99% 小:92.4% 中:91.0% 小:93.3% 中:91.9%	小:100% 中:100% (H30年度)	9,473	7,111	7,307	9,150	課長 0.10人 係長 0.20人 職員 0.80人	順調	朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合は前年度とほぼ同程度で推移しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】成果指標については概ね横ばいで推移しており「順調」と判断。 【課題】子育てサポーター及び子育てサポーターリーダーの登録数増加と、登録後の活動場所の展開が必要である。	核家族世帯や共働き世帯の増加等、子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化しているため、子育てサポーター養成後、十分な活動をするための接点を持てるよう、市民センターや関係局と協議していく。		

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																			
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度			H28年度			人件費(目安)		H29年度				H31年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題		
I-3-(1)-① 多様な学習機会や学習情報、学びの場の提供	5	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。また、それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する。	生涯学習市民講座参加者数	93,589人(H25年度)	目標 100,000人 実績 85,864人 達成率 85.9%	100,000人 84,107人 84.1%	100,000人(H30年度)	15,463	14,240	14,151	6,900	課長 0.10人 係長 0.20人	順調	生涯学習市民講座参加者数は前年度と比較し減少しているが、生涯学習活動に関する満足度は前年度より上昇し、ほぼ目標を達成している。したがって「順調」と判断。	順調	【評価理由】 生涯学習市民講座参加者数はやや減少したものの、生涯学習推進コーディネーターの配置割合および生涯学習活動に関する満足度は上昇しており、活動内容の充実が図れていることから「順調」と判断。 【課題】 生涯学習市民講座については、地域課題解決や地域活動を目指す講座を増やす必要がある。 生涯学習推進コーディネーター配置事業については、館長にコーディネーターの必要性を周知し、配置を促進していく必要がある。	地域に根付いた活動を実施するため、地域の実情を反映し、地域課題の解決につながる講座を増やしていく。 平成30年度に実施した計画書・報告書等の簡素化の他、既存事業の統合による効率化を図っていく。 また、生涯学習推進コーディネーターについては、研修会や館長研修を通じてコーディネーターの必要性を館長に周知していく。		
	6	生涯学習推進コーディネーター配置事業	生涯学習課	生涯学習の推進ならびに市民センター等の活性化を図るため、学習機会や人材等、地域に関する様々な情報を収集や提供を行う生涯学習コーディネーターを、全市民センターに配置する。	生涯学習推進コーディネーターの配置割合	56.2%(H25年度)	目標 65% 実績 51.1% 達成率 78.6%	70% 56.2% 80.3%	85%(H32年度)	10,705	7,256	7,107	3,650	課長 0.10人 係長 0.10人 職員 0.20人	順調	生涯学習推進コーディネーターの配置割合は目標には達していないものの、昨年度より増加している。また、研修会の実施等により生涯学習推進コーディネーターの質の向上や活動の充実化を図っており、「順調」と判断。					

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度		H28年度		人件費(目安)		H29年度				H31年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	
7		北九州市民カレッジ事業	管理運営課	市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進および「循環型生涯学習社会」を担う人材の育成を図る。 北九州市民カレッジの講座は、生涯学習総合センター主催コース(まちづくり・人材育成系、総合・教養系の2コース)と高等教育機関提携コースを前期・後期の2期で実施。	受講者数(H28年度から八幡西生涯学習総合センター実施分も含む)	目標	1,380人	1,410人	対前年度30人増	5,668	4,935	4,165	21,850	課長	0.40人	順調	受講者数、受講者の満足度がいずれも目標を達成しているため、「順調」と判断。		
						実績	1,435人	1,477人						達成率	104.0%				
				受講者の満足度	目標	95%	95%	95%(毎年度)						職員	1.10人				
					実績	96%	98%							達成率	101.1%				103.2%
I-3-(2)-①	地域活動をリードする人材の育成	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。また、それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する。	生涯学習市民講座参加者数	目標	100,000人	100,000人	100,000人(H30年度)	15,463	14,240	14,151	6,900	課長	0.10人	順調	生涯学習市民講座参加者数は前年度と比較減少しているが、生涯学習活動に関する満足度は前年度より上昇し、ほぼ目標を達成している。したがって「順調」と判断。	【評価理由】 市政モニターアンケートの結果からは、地域活動をリードする人材の増加について、実感を伴う段階まで達していないことが分かったものの、北九州市民カレッジ事業及び生涯学習活動促進事業についての成果指標は概ね好調に推移していることから、「順調」と判断。 【課題】 生涯学習市民講座において、地域課題解決や地域活動を目指す講座を増やす必要があり、そうした受講者の中から新たに講座や地域活動をリードする人材を発掘していく必要がある。	住民主体の地域づくりを促進するため、生涯学習市民講座において、地域課題解決や地域活動をリードする人材の発掘、育成、活用を図るため、体系的に支援する仕組みをつくる。
						実績	85,864人	84,107人						達成率	85.9%				
				生涯学習活動に関する満足度	目標	90%	90%	90%以上(H32年度)						職員	0.50人				
					実績	84%	87%							達成率	93.3%				96.7%
9		地域課題解決のための人材活用支援事業	生涯学習課	地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、地域人材の発掘～育成～活用までを体系的に支援し、地域力アップにつながる仕組みをつくる。学んだ成果を地域に活かす講座の開催、地域活動やボランティア(アドバイザー)グループによる支援事業を実施する。	「地域活動をリードする人材やボランティア活動に取り組む人材が増加していると感じる」に肯定的な回答をした割合	目標	54%	60%以上(H32年度)	1,000	89	-	5,400	課長	0.10人	やや遅れ	地域活動をリードする人材育成として、生涯学習事業を通して地域で活躍できる人材の育成、生涯学習推進コーディネーターの配置の推進や市民センター館長等研修を実施した。 また、人材マッチングモデル事業を、年長者研修大学校周望学舎と連携し市民センターで実施した。 一方で、市政モニターアンケート結果では「地域活動をリードする人材やボランティア活動に取り組む人材が増加していると感じる」に肯定的な回答をした割合が、30.6%で目標達成しなかったため、「やや遅れ」と判断。			
						実績	30.6%						達成率	56.7%					職員
I-3-(2)-②	地域を支えるボランティアの育成	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数(累計)	目標	75法人	90法人	105法人(H30年度)	20,137	18,588	18,445	21,450	課長	0.30人	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者数が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	【評価理由】 新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者数が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。 【課題】 市民活動のさらなる促進のため、新たな活動参加者の掘り起こしとともに、活発に活動する市民活動団体を育成していくことが必要である。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。
						実績	73法人	88法人						達成率	97.3%				
				サポートセンター利用者数	目標	24,000人	24,500人	25,000人(H30年度)						職員	2.00人				
					実績	24,222人	24,338人							達成率	100.9%				99.3%

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																			
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度		H28年度		H29年度		H29年度		H31年度予算要求に向けた施策の方向性				
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価		評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
II-1-(1)-② 市民の消費生活の安定と向上	11	消費者啓発の推進	消費生活センター	悪質化・巧妙化する消費者被害を未然に防止するため、法律相談会や消費者啓発・教育講座等、消費者自身が危機回避や被害にあった場合の適切な対処法を身に付けるための各種事業を実施するなど、啓発の推進や支援を行う。	消費生活センターの認知度	目標	92%	90%	90%	90%以上(毎年度)	25,081	23,541	26,389	8,075	課長	0.05人	順調	消費生活センターの認知度及び、消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合がそれぞれ目標の90%を超えて推移していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 消費生活センターの認知度及び消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合がそれぞれ目標の90%を超えて推移していることから、「順調」と判断。 【課題】 消費者トラブルが多発している中で、消費者から最初に連絡を受ける存在として、今後も安定した活動を推進する必要がある。	今後も効果的・効率的な啓発活動に務め、相談窓口の周知とともに、賢い消費者の育成を図り、被害防止に取り組んでいく。
						実績	92.9%	94.0%	90%						係長	0.30人					
12	日本トッポクラスの安全・安心なまちづくり関連事業	安全・安心推進課	警察、関係団体等と連携し、市民等の防犯意識の向上や自主防犯活動の活発化、安全・安心な環境の整備などトッポクラスの安全・安心なまちづくりを推進する。	防犯パトロール活動への参加者数	目標	14,170人	16,000人	16,000人	20,000人以上(H31年度)	15,663	15,835	14,088	15,900	課長	0.10人	順調	防犯パトロール活動への参加者数が1,190人増加し、市民が感じる治安状況も改善していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 防犯パトロール活動への参加者数や「安全セミナー」「地域安全マップづくり」の実施校数の増加など、犯罪予防の活動が充実してきている。結果として性犯罪認知件数の減少や、市民が感じる治安状況の改善に繋がっていると考えられる。 また、安全・安心総合相談ダイヤルの認知度も向上していることから、「順調」と判断。	犯罪認知件数の減少に体感治安の改善が伴うよう、引き続き安全・安心に関する活動の推進を図るとともに、効果的・効率的に安全・安心なまちづくりに向けた情報や取組を市内外に発信していく。 また、安全・安心総合相談ダイヤル事業は、市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け、市民の相談機会の充実と不安感解消を図るものであるため、継続して事業を実施していく。	
					実績	16,515人	17,705人	17,705人						係長	0.35人						職員
II-1-(3)-① 「北九州 市安全・安心条例」の制定と安全・安心に関する施策の推進	13	子どもと女性の「防犯力アップ」事業	安全・安心推進課	子どもと女性の犯罪被害を防止するため、子ども自身や子どもを子見守る保護者、女性を対象とした安全セミナー等を開催し、防犯意識や知識の向上を図る。	「安全セミナー」「地域安全マップづくり」延べ実施校	目標	75校	80校	80校	125校(H31年度)	1,900	1,705	2,035	15,900	課長	0.10人	順調	性犯罪認知件数は前年度に比べ12件減少している。また、「安全セミナー」や「地域安全マップづくり」の延べ実施校数においても目標を達成していることから「順調」と判断。	順調	【課題】 体感治安の更なる向上のため、引き続き安全・安心に関する取組の情報発信が求められる。また、市政に関する幅広い知識を有する相談員を確保し、適切な相談体制をとる必要がある。	
						実績	77校	98校	98校						係長	0.35人					
14	安全・安心総合相談ダイヤル事業	安全・安心相談センター	市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け付ける「安全・安心総合相談ダイヤル」を円滑に運用し、市民の相談機会の充実と不安感解消を図る。	安全・安心総合相談ダイヤルの認知度	目標	22%	25%以上	25%以上	前年度比増(毎年度)	21,640	19,290	18,872	15,900	課長	0.10人	順調	安全・安心総合相談ダイヤルについて円滑に運営出来ており、市民の認知度も高まっているため、「順調」と判断。				
					実績	24.1%	28.8%	28.8%						係長	0.35人					職員	1.50人

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度		H28年度		人件費(目安)		H29年度			H31年度予算要求に向けた施策の方向性		
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価	局施策評価の理由及び課題
II-1-(3)-② 防犯活動の強化	15	地域防犯対策事業	安全・心推進課	北九州市安全・安心条例では、「市民等は安全・安心に関する意識を自ら高め、行動すること」「市及び市民等は相互に連携を深め、防犯活動を協力して推進すること」と定められている。この事業では、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実感できるまちの実現を図る。	街頭犯罪件数	現状値	5,212件(H25年)	目標	前年(3,706件)比減	前年比減	35,380	35,055	31,437	15,900	課長	0.10人	順調	街頭犯罪認知件数が前年度に比べ264件減少したことに加え、市民が感じる治安状況が改善し、目標を達成していることから「順調」と判断。	【評価理由】 刑法犯罪認知件数や市民が感じる治安状況が着実に改善し、目標を達成していることから「順調」と判断。 【課題】 様々な事業や取組による防犯活動の強化が犯罪件数や体感治安に順調に表れてきているが、更なる整備事業の実施により、防犯活動の充実を推進を図る必要がある。	通学路防犯灯の拡充推進を図る。また防犯カメラの維持管理・運用を適正に行っていく。今後これらの事業を警察等と連携して推進するとともに、地域への積極的なPRを行い、安全・安心を実感できるまちづくりを進める。
						実績	2,734件	2,470件	前年比減	達成率										
16	防犯灯設置事業	安全・心都市整備課	夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため地域と市が協力しながら、防犯灯を設置。防犯灯の設置にあたっては、LED防犯灯の設置促進を図り、町内会等の地域の防犯灯の設置のため費用の一部を助成し、明るく安心して生活できるまちづくりを推進。	刑法犯認知件数	現状値	9,682件(H27年)	目標	前年(9,682件)比減	前年比減	154,797	70,983	95,704	3,435	課長	0.04人	順調	刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が目標を達成していることから「順調」と判断。			
					実績	8,124件	7,570件	前年比減	達成率											116.1%
				市民が感じる治安状況(体感治安)	現状値	73.7%(H27年度)	目標	前年度(73.7%)比増	前年度比増								順調			
					実績	77.9%	79.0%	前年度比増	達成率											105.7%
17	通学路防犯灯拡充事業	安全・心都市整備課	通学路において、市によるLED防犯灯の設置を行い、通学路の夜間の安全確保に取り組む。	刑法犯認知件数	現状値	9,682件(H27年)	目標	前年(9,682件)比減	前年比減	16,340	10,115	6,857	3,435	課長	0.04人	順調	刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が目標を達成していることから「順調」と判断。			
					実績	8,124件	7,570件	前年比減	達成率											116.1%
				市民が感じる治安状況(体感治安)	現状値	73.7%(H27年度)	目標	前年度(73.7%)比増	前年度比増								順調			
					実績	77.9%	79.0%	前年度比増	達成率											105.7%

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H29年度		H28年度		人件費(目安)		H29年度				H31年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
18	防犯カメラ事業		安全・心都市整備課	<p>暴力団犯罪をはじめ街頭犯罪を抑止し、市民生活等の安全・安心を確保するため、人が多く集まる繁華街や幹線道路に既に設置している防犯カメラの適正な維持管理、運用を行う。</p>	<p>繁華街における刑法犯認知件数</p>	<p>小倉中央小学校区76件(前年比10件減1%)減</p> <p>黒崎中央小学校区288件(前年比5件減1%)減</p> <p>計1,073件(前年比166件減15%)減(平成29年)</p>	<p>目標 前年(1,187件)比減</p>	<p>実績 230件</p>	<p>前年比減 51件増</p>	<p>前年比減(毎年)</p>	45,711	44,510	44,342	3,435	課長	0.04人	順調	<p>刑法犯認知件数は中期目標を達成しており、市民が感じる治安状況についても改善が見られることから「順調」と判断。</p>		
						<p>73.7%(H27年度)</p>	<p>目標 前年度(73.7%)比増</p>	<p>実績 77.9%</p>	<p>前年度比増 79.0%</p>	<p>90%(H31年度)</p>									係長	0.17人
						<p>達成率 119.4%</p>	<p>94.7%</p>	<p>105.7%</p>	<p>101.4%</p>											
19	防犯カメラ設置補助事業		安全・心都市整備課	<p>安全・安心条例の施行を機に、地域団体や事業者が犯罪抑止を目的として公共空間を設置する防犯カメラを設置する際の経費の一部を補助することで、安全・安心な環境の構築に向けたさらなる取り組みを推進する。</p>	<p>刑法犯認知件数</p>	<p>9,682件(H27年)</p>	<p>目標 前年(9,682件)比減</p>	<p>実績 8,124件</p>	<p>前年比減 7,570件</p>	<p>8,000件(H31年)</p>	22,750	7,343	21,546	3,435	課長	0.04人	順調	<p>刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が目標を達成していることから「順調」と判断。</p>		
						<p>73.7%(H27年度)</p>	<p>目標 前年度(73.7%)比増</p>	<p>実績 77.9%</p>	<p>前年度比増 79.0%</p>	<p>90%(H31年度)</p>									係長	0.17人
						<p>達成率 116.1%</p>	<p>106.8%</p>	<p>105.7%</p>	<p>101.4%</p>											
<p>9,682件(H27年)</p>	<p>目標 前年(9,682件)比減</p>	<p>実績 8,124件</p>	<p>前年比減 7,570件</p>	<p>8,000件(H31年)</p>	職員	0.17人														
<p>73.7%(H27年度)</p>	<p>目標 前年度(73.7%)比増</p>	<p>実績 77.9%</p>	<p>前年度比増 79.0%</p>	<p>90%(H31年度)</p>			職員	0.17人												
<p>達成率 116.1%</p>	<p>106.8%</p>	<p>105.7%</p>	<p>101.4%</p>																	

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H29年度		H28年度		人件費(目安)		H29年度				H31年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
II-1-(3)-③ 暴力団追放運動の推進	20	暴力団追放の推進	安全・安心相談センター	社会全体で暴力団を排除する取り組みを推進するため、事業者・市民の暴排意識を高め市民暴力団追放総決起大会や暴力団追放強調月間による集中的な啓発活動などを実施し、官民一体となって取り組む。	暴追対策に対して評価した市民の割合	目標	72%以上	前年度比増	前年度比増(毎年度)	16,273	9,145	9,242	12,850	課長	0.40人	順調	暴追対策に対する市民評価の割合については微減であったものの、企業における暴力団排除条項の規定割合については、平成27年度(73.4%)に比べ増加しており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 官民一体となった暴力団追放運動の推進に取り組んでおり、企業における暴力団排除条項の規定割合の増加や、市民による暴追対策への評価が向上してきていることから「順調」と判断。	引き続き暴力団追放の取組を進めるとともに、より細やかな民事介入暴力相談の実施等、内容の充実を図っていく。
						実績	73.6%	71.9%												
	21	民事介入暴力相談事業	安全・安心相談センター	市民生活への暴力団等の介入を排除し、安全・安心なまちづくりを図るため、民事介入暴力相談を実施。	暴追対策に対して評価した市民の割合	目標	72%以上	前年度比増	前年度比増(毎年度)	27,238	25,974	25,853	4,300	課長	0.20人	順調	暴追対策に対する市民評価の割合については微減であったものの、企業における暴力団排除条項の規定割合については、平成27年度(73.4%)に比べ増加しており、「順調」と判断。	順調	【課題】 暴力団追放運動に関する機運の醸成や研修会を継続実施し、事業者及び市民の暴排意識を薄れさせないことが必要。	
						実績	73.6%	71.9%												
					企業における暴力団排除条項の規定割合	目標	75%以上	前年比増(H31年度)					係長	0.20人	順調					
						実績	76.9%	102.5%								職員	0.00人			

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度		H28年度		人件費(目安)		H29年度				H31年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価		局施策評価の理由及び課題
II-1-(3)-④ 交通安全の推進	22	交通安全推進事業	安全・安心都市整備課	第9次北九州市交通安全計画に基づき、重点項目について啓発を実施。 生涯にわたる交通安全教育及び効果的な広報啓発活動により、市民に広く交通安全思想を普及し、交通事故防止を図るもの。	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	8,325件(H26年)	目標 前年(8,075件)比減	実績 7,729件	前年比減 7,001件	H32年までに 7,300件以下	7,802	7,335	5,418	9,800	課長 0.20人	順調	交通事故の発生件数が前年比728件減少と大きく改善しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 交通事故の発生件数、自転車関連交通事故の発生件数がともに、着実に減少しているため「順調」と判断。 【課題】 より効果的に交通事故を防止するために、高齢者や子ども等の交通弱者を対象とした交通安全教育や啓発活動を実施していく必要がある。	引き続き交通事故防止について、子どもから高齢者まで幅広く啓発を行う。
		23	交通安全センター管理運営	安全・安心都市整備課	北九州市立交通安全センターを管理するとともに、交通安全教室等を開催し、自転車のルール・マナーの徹底を図る。	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	8,325件(H26年)	目標 前年(8,075件)比減	実績 7,729件	前年比減 7,001件	H32年までに 7,300件以下	27,573	27,572	27,572	3,650	課長 0.10人	順調	交通事故発生件数、自転車関連交通事故発生件数ともに前年比で減少したため「順調」と判断。	順調	引き続き交通事故防止について、子どもから高齢者まで幅広く啓発を行う。
II-1-(3)-⑤ 非行や犯罪を生まぬ地域づくり	24	「自転車マナーアップ北九州」推進事業	安全・安心都市整備課	自転車のルール・マナーアップを推進するため、自転車交通ルール検定の実施など自転車安全教育や啓発の更なる推進とともに、万が一に備えた自転車保険の加入促進に取り組む。	自転車関連交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	972件(H26年)	目標 前年(850件)比減	実績 777件	前年比減 751件	前年比減(毎年)	2,000	1,145	1,947	5,400	課長 0.10人	順調	自転車事故発生件数は前年比で26件減少したため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各種犯罪認知件数の減少とともに、市民が感じる治安状況も前年度比で改善しているため、「順調」と判断。 【課題】 体感治安の更なる改善のため、引き続き安全・安心に関する情報や取組を市内外に発信していくことが求められる。	犯罪認知件数の減少に体感治安が伴うよう、引き続き安全・安心に関する活動の推進を図るとともに、安全・安心に関する情報や取組を効果的に市内外に発信していく。
		25	地域防犯対策事業	安全・安心推進課	北九州市安全・安心条例では、「市民等は安全・安心に関する意識を自ら高め、行動すること」「市及び市民等は相互に連携を深め、防犯活動を協力して推進すること」と定められている。この事業では、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実現を図る。	街頭犯罪件数	5,212件(H25年)	目標 前年(3,706件)比減	実績 2,734件	前年比減 2,470件	前年比減	35,380	35,055	31,437	15,900	課長 0.10人	順調	街頭犯罪認知件数が前年度に比べ264件減少したことに加え、市民が感じる治安状況が改善し、目標を達成していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各種犯罪認知件数の減少とともに、市民が感じる治安状況も前年度比で改善しているため、「順調」と判断。 【課題】 体感治安の更なる改善のため、引き続き安全・安心に関する情報や取組を市内外に発信していくことが求められる。
					市民が感じる治安状況(体感治安)	73.7%(H27年度)	目標 前年度(73.7%)比増	実績 77.9%	前年度比増 79.0%	90%(H31年度)					係長 0.35人	順調	街頭犯罪認知件数が前年度に比べ264件減少したことに加え、市民が感じる治安状況が改善し、目標を達成していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各種犯罪認知件数の減少とともに、市民が感じる治安状況も前年度比で改善しているため、「順調」と判断。 【課題】 体感治安の更なる改善のため、引き続き安全・安心に関する情報や取組を市内外に発信していくことが求められる。	犯罪認知件数の減少に体感治安が伴うよう、引き続き安全・安心に関する活動の推進を図るとともに、安全・安心に関する情報や取組を効果的に市内外に発信していく。

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度		H28年度		人件費(目安)		H29年度				H31年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価		局施策評価の理由及び課題
II-3-(4)-① 平和の尊 さへの理 解の促進	26	戦時資料展示 コーナー管理運 営事業	地域振興課	市民からご寄贈いただいた戦時下の資料を保管・展示することにより、北九州市立埋蔵文化財センター内に開設した戦時資料展示コーナーにおいて、戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを多くの市民に理解していただく。	戦時資料展示コーナー見学者数	目標	4,000人	4,000人	4,000人 (毎年度)	1,453	1,366	1,533	1,220	課長	0.03人	大変 順調	目標値を大幅に上回ったため、「大変順調」と判断。	大変 順調	【評価理由】 見学者数は昨年に引き続き、目標値を大幅に上回ったため「大変順調」と判断。 【課題】 今後さらに多くの市民に会場いただけるよう、広報活動の強化を図り、市内文化施設や宿泊施設等、案内チラシ配布先の拡充に取り組み必要がある。	戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを、多くの市民に理解していただくため、広報活動を通じて、戦時資料展示コーナーの周知により一層力を入れていく。チラシの配布先の拡充等、PR活動を通じて、入場者数の増加を図る。
						実績	5,274人	5,039人						係長	0.05人					
						達成率	131.9%	126.0%						職員	0.05人					
III-1-(1)-④ 市民のモ ラル・マ ナーの向 上	27	モラル・マナー アップ関連条例 推進事業	安全・安都整備課	条例や基本計画に基づき下記事業に取り組む。 ・小倉・黒崎地区(迷惑行為防止重点地区)での巡視活動(過料の適用) ・地域が実施する迷惑行為防止活動に対する支援 ・小学生を対象としたモラル・マナーアップ教育 ・モラル・マナーアップに関する広報啓発	迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加	目標	前年度(87団体)比増	前年度比増	前年度比増(毎年度)	29,492	27,887	26,999	6,150	課長	0.10人	順調	迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加及び路上喫煙率について目標を達成していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 迷惑行為防止に係る地域活動団体数は前年度より増加し、活動の裾野が広がっている。 また、巡視活動及び広報啓発活動により路上喫煙率が前年度より減少しているため、「順調」と判断。 【課題】 円滑な巡視活動や活動の裾野の拡大のため、様々な機会を捉えた広報や周知が必要。	迷惑行為防止重点地区サイン整備事業は、事業計画どおりに実施し、平成29年度で終了。 今後はモラル・マナーアップ関連条例推進事業について、基本計画(第2次計画)に掲げた目標達成に向けて取り組みの充実・強化を図る。
						実績	92団体	94団体						係長	0.20人					
						達成率	105.7%	102.2%						職員	0.40人					
	28	迷惑行為防止重点地区サイン整備事業	安全・安都整備課	迷惑行為防止重点地区内の路面標示等サイン整備の充実を図ることで、円滑な巡視活動や広報・周知の取り組み強化につなげ、市民のモラル・マナーアップを推進する。	迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加	目標	前年度(87団体)比増	前年度比増	前年度比増(毎年度)	2,000	1,928	1,922	4,400	課長	0.10人	順調	迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加及び路上喫煙率について目標を達成していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 平成30年度で調査事業が終了するため、調査報告書を刊行する必要があるが、文化財調査は順調に進んでいる。 また、補助制度についても文化財保存団体への周知や適切な協議を進めることができたため「順調」と判断。 【課題】 指定無形民俗文化財の保護団体の自主的な申請に対する補助事業については、引き続き保護団体に対して周知していく必要がある。	伝統文化の発掘や継承のため、今後も引き続き、文化財保護団体の活動の活性化に資する補助制度を継続していく。
						実績	92団体	94団体						係長	0.10人					
						達成率	105.7%	102.2%						職員	0.30人					
29	小倉祇園太鼓調査事業	文化企画課	平成28年3月2日、小倉祇園太鼓が国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されたことに伴い、その文化財としての価値を明らかにするべく、平成28年度から「小倉祇園太鼓調査委員会」を設置し、平成30年度まで調査を実施する。	調査報告書の刊行	目標	／	編纂執筆	刊行(H30年度)	10,520	8,486	—	11,050	課長	0.20人	順調	順調に調査が進捗しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 平成30年度で調査事業が終了するため、調査報告書を刊行する必要があるが、文化財調査は順調に進んでいる。 また、補助制度についても文化財保存団体への周知や適切な協議を進めることができたため「順調」と判断。 【課題】 指定無形民俗文化財の保護団体の自主的な申請に対する補助事業については、引き続き保護団体に対して周知していく必要がある。	伝統文化の発掘や継承のため、今後も引き続き、文化財保護団体の活動の活性化に資する補助制度を継続していく。	
					実績	／	編纂執筆						課長	0.50人						
					達成率	／	—						職員	0.50人						
30	文化財保存補助	文化企画課	伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承していく。	指定無形民俗文化財保存支援団体数	目標	16団体	16団体	17団体 (H30年度以降毎年度)	1,052	1,015	1,007	11,050	課長	0.20人	順調	保存団体への周知と適切な協議を行い、事業を進めることができたため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 平成30年度で調査事業が終了するため、調査報告書を刊行する必要があるが、文化財調査は順調に進んでいる。 また、補助制度についても文化財保存団体への周知や適切な協議を進めることができたため「順調」と判断。 【課題】 指定無形民俗文化財の保護団体の自主的な申請に対する補助事業については、引き続き保護団体に対して周知していく必要がある。	伝統文化の発掘や継承のため、今後も引き続き、文化財保護団体の活動の活性化に資する補助制度を継続していく。	
					実績	16団体	17団体						係長	0.50人						
					達成率	100.0%	106.3%						職員	0.50人						

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施							【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度		H28年度		H27年度		H29年度		事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	H31年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数						
Ⅲ-2-(2)-① 発信力の高い文化芸術の振興	31	芸術文化活性化事業	文化企画課	<p>【劇場・自主事業】 エンターテインメントから芸術性の高い作品まで舞台芸術全般を網羅し、幅広い年代層をターゲットに公演を行う。また、北九州芸術劇場オリジナルの演劇作品等を制作し、公演を実施。</p> <p>【響ホール・自主事業】 室内楽専用ホールの特性を生かした質の高いコンサートや響ホールを拠点として地元演奏家を積極的に育てるコンサートを行う。また、響ホールからの発信を意識した、オリジナリティのある演奏会を実施。</p>	北九州芸術劇場・自主事業入場率	目標 80 %	実績 85 %	達成率 106.3 %	80 % (H30年度)	134,851	90,618	120,539	3,550	課長 0.05 人	順調	北九州芸術劇場については、幅広い年代層を対象とした公演が提供され、入場率も目標値を上回った。響ホール事業については、入場率の面で目標値を若干下回ったものの、平成28年度から一定の改善が見られた。また、国内外で活躍する著名な演奏家による公演のみならず、声楽コンサートや子どもも楽しめるファミリーコンサート等、幅広いラインナップをそろえ、来場者の満足度は非常に高かった。以上のことから、本市の文化振興に寄与したと判断し、「順調」と判断。	【評価理由】 北九州芸術劇場、響ホールは自主事業の実施により、文化芸術を発信し概ね目標を達成した。 北九州国際音楽祭は、高い満足度を維持している。また「映画の街・北九州」の認知度は年々高くなっており、松永文庫の「年間来館者数」も好調であることから、施策として「順調」と判断。	順調	今後とも発信力の高い、まちの魅力づくりにつながる事業の実施を目指し、事業内容を検討し、効率性の観点も加えながら、事業規模を維持していく。 映像製作誘致強化関連事業については、引き続きアジアを中心とする海外作品の誘致等に積極的に取り組み、全国的に注目されている松永文庫からの映画文化の発信とともに「映画の街・北九州」という都市ブランドを国内外に広く発信していく。		
	響ホール事業・響ホール自主事業入場率	目標 65 %	実績 60.7 %	達成率 93.4 %	65 % (H30年度)				係長 0.17 人	職員 0.17 人											
	32	北九州国際音楽祭	文化企画課	地域の音楽文化の向上を図ることを目的に、クラシックコンサートを中心とした音楽祭に助成を行うもの。本音楽祭は、市制25周年を記念して始まり、29年度で30回を数え、本市の秋を彩る催し物として定着している。	北九州国際音楽祭の満足度	目標 85 %	実績 100 %	達成率 117.6 %	85 % (H30年度)	50,000	49,395	28,860	1,625	課長 0.05 人	順調	海外オーケストラや世界で活躍する本市出身アーティスト等、国内外の一流の演奏家を招いて実施された。入場者数も1万人を超え、満足度も高い水準を維持していることから、本市の文化振興に大きく寄与しており、「順調」と判断。	【課題】 高い入場率につながる魅力的な自主事業を企画していく必要がある。また、芸術文化の振興を街のにぎわいづくりにつなげていくことが重要である。 国内外に本市の魅力を発信できる作品を誘致するため、ロケ候補地の情報等を広く収集する必要がある。				
	33	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献(直接経済効果)	目標 100,000千円(H21年度)	実績 408,148千円	達成率 371.0 %	500,000千円(H30年度以降毎年度)	56,388	54,331	57,280	36,100	課長 0.40 人	大変順調	撮影隊の市内滞在に伴う地域経済への貢献、北九州フィルム・コミッションの市民への認知度ともに、目標値を大幅に上回ったことから「大変順調」と判断。					
	34	松永文庫企画事業	文化企画課	映画・芸能資料館「松永文庫」における企画展示・イベント等の積極的な開催を通じて、映画文化の振興、「映画の街・北九州」の情報発信に取り組む。	年間来館者数	目標 10万人	実績 9万7千人	達成率 90.0 %	10万人/年	9,000	8,924	6,500	4,150	課長 0.10 人	順調	年間来館者数の目標は達成できなかったが、9割程度の実績であることから、「順調」と判断。					

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H29年度		H28年度		人件費(目安)		H29年度				H31年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
Ⅲ-2-(2)-② 市民の文化芸術活動の促進	35	芸術文化育成負担金・補助金	文化企画課	本市の文化水準の向上及び地域文化の振興を推進することを目的として、積極的に文化活動を展開している文化団体等の事業に対して、助成を行う。	各種文化事業の実施	16事業(H23年度)	目標 16 事業 実績 16 事業 達成率 100.0 %	15 事業 15 事業 100.0 %	16事業(H30年度)	36,350	36,150	40,334	5,825	課長 0.05 人 係長 0.30 人 職員 0.30 人	順調	前年度比1団体減の15団体にに対し助成を行い、各団体の事業は予定どおり実施され、多数の来場があった。この助成制度により、地域・市民レベルにおける文化活動を支える一定の効果があることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 文化団体や市民の行う芸術・文化活動等を助成し、市民の文化芸術活動の促進に寄与しており、「順調」と判断。 【課題】 助成の内容や必要性を検討しながら、事業を実施していく必要がある。	助成制度は、市民レベルでの活動を支えるものであり、市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興のためにも、今後も継続的に実施していく。	
	36	北九州市文化振興基金	文化企画課	北九州市の文化水準の向上と地域文化の振興に資することを目的として設置された北九州市文化振興基金運用成果実により、市民の行う芸術・文化活動等に対し助成を行う。	北九州市文化振興基金奨励事業の補助件数	27件(H21年度)	目標 25 件 実績 21 件 達成率 84.0 %	25 件 20 件 80.0 %	25件(毎年度)	11,190	8,041	7,682	3,825	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.30 人	順調	市民の自主的な芸術、文化活動の助成を行うことができたため、「順調」と判断。				
Ⅲ-2-(2)-③ 市民が文化芸術に接する機会の拡大	37	美術館企画展充実事業	美術館普及課	美術館本館及び分館において、多彩で魅力ある企画展を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進する。	美術館の入館者数	245,420人(H26年度)	目標 113,000 人 実績 113,274 人 達成率 100.2 %	220,000 人 183,887 人 83.6 %	230,000人(H30年度)	126,811	121,428	73,496	36,750	課長 0.25 人 係長 0.65 人 職員 3.65 人	順調	平成29年11月の美術館本館リニューアルオープンに合わせて企画展及びコレクション展を実施した。リニューアル工事の影響もあり、美術館の入館者については、目標値を下回ったが、コレクション展入館者は目標を上回ったため、「順調」と判断。		【評価理由】 美術館、博物館ともに入館者数は好調に推移しているため、「大変順調」と判断。 【課題】 美術館については、より魅力のある企画を実施することで入館者数を増加させる必要がある。 博物館については、隣接する大規模テーマパークの開園に伴い、修学旅行やツアー等の団体客の減少が見込まれる。	美術館については、リニューアル工事を終えて、より積極的な企画を実施することで集客の増加につなげていく。 博物館については、次なる開館20周年記念に向けて、効果的な広報PRや魅力的な企画展・特別展の開催等ソフト面での充実を工夫して、事業展開していく。 また両館とも、施設の老朽化に伴う施設改修について、費用負担等を検討していく。	
	38	博物館企画展・特別展充実事業	自然史・歴史博物館普及課	<平成29年度特別展>・春の特別展「ホントはすごい! どうぶつ展」・夏の特別展「大昆虫博」・秋の特別展「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原 忠真」・冬の特別展「アクア・キングダム」・春の特別展「Bones〜骨、ほね、ホネ〜」	博物館総入館者数	369,711人(H24年度)	目標 420,000 人 実績 508,003 人 達成率 121.0 %	420,000 人 532,110 人 126.7 %	450,000人(H30年度以降毎年度)	55,600	52,173	45,845	74,600	課長 1.40 人 係長 1.80 人 職員 5.40 人	大変順調	平成29年度は開館15周年を迎える年であったため、11月の開館記念日には、開館記念式典を実施した。特別展・企画展についても、15周年記念事業として大々的にPRを行った。また、特別展・企画展に併せて、15周年記念単独でも様々な関連イベントを企画・実施し、集客の増加を図った。その結果、平成29年7月に累計入館者数600万人を達成し、年間入館者数も前年度を上回る結果となったため、「大変順調」と判断。				

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施				【Check】 評価 / 【Action】 改善														
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)			H29年度		H28年度		H27年度		H29年度		H31年度予算要求に向けた施策の方向性				
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数		事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題
Ⅲ-2-(2)-④ 文化芸術の担い手の育成	39	美術鑑賞事業「ミュージアム・ツアー」	美術館普及課	市内の小学3年生を対象に、美術作品の鑑賞体験型のプログラムを作成し、子どもたちに体験してもらおうとシビックプライドの醸成をはかる。	参加校の割合	—	目標 15 %	実績 14 %	達成率 93.3 %	100% (H30年度)	6,000	5,568	—	25,650	課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 3.00 人	順調	市内小学校130校のうち、八幡東区・戸畑区内の小学3年生を対象に試行事業を実施した。インフルエンザの流行に伴い中止した1校を除く18校で予定通り実施したため、概ね「順調」と判断。	順調	【評価理由】 次世代の文化芸術の担い手となる子どもたちに対し、優れた文化・芸術に触れる機会を提供している。様々な分野の事業を実施しているが、いずれも概ね好調に推移していることから、「順調」と判断。	次世代の担い手の育成は非常に重要な課題であり、シビックプライドの醸成という観点からも、子どもたちや若者が文化・芸術に接する機会を拡大していくことが必要である。 今後、学校・地域等における教育普及活動(アウトリーチ)やホール等の文化施設における体験活動等、子どもたちの文化・芸術に接する機会の充実に向けて、事業内容を検討していきたい。 平成30年度と同様に、市民対象の公開事業や地域との連携、現代アートを紹介する場としてのCCA北九州の浸透に努める。
	40	優れた文化・芸術との“出会い”創造事業	文化企画課	将来の文化・芸術の担い手を育成し、本市の文化振興をさらに進めるとともに、シビックプライドの醸成につなげていくため、若者や子どもたちを中心に優れた文化・芸術との“出会い”の場・機会を創造していく。	教育普及事業への参加者数の増加	2,500人 (H27年度)	目標 2,500 人 3,000 人	実績 4,024 人 5,179 人	達成率 161.0 % 172.6 %	3,000人 (H30年度)	18,000	12,317	14,450	8,725	課長 0.15 人 係長 0.40 人 職員 0.40 人	大変順調	小中学校等へのアーティストの派遣や、放課後児童クラブでの訪問コンサートの実施、東京藝術大学等の一流芸術家による指導等、子どもたちが優れた文化や芸術に触れることのできる機会を創ることができた。 参加者数も目標値を大きく上回る結果となったことから、シビックプライドの醸成や本市の文化振興に寄与したと判断し、「大変順調」と判断。	【課題】 文化・芸術の担い手を育成していくためには、事業を効果的に周知するとともに、市民が文化・芸術に触れる機会を確保していく必要がある。	「街なか」での合唱コンサートや子どもとシニア世代による市民合唱祭に加え、高齢者を対象とした合唱事業の実施等、社会包摂的機能の活用を図りながら、「合唱の街・北九州」の更なる推進に向けて事業を実施していきたい。	
	41	現代美術センター・CCA北九州支援事業	文化企画課	CCA北九州は、現代美術の世界的な拠点のひとつとなることを目指して活動している研究・学習機関。国内外から集まる現代美術の若手アーティスト等の指導育成、招聘アーティストによる新作発表のための展覧会、国内外の第一線で活躍する学芸員による「キュレーターミーティング」を開催するとともに、CCA北九州のネットワークを活かして、その活動を広く市民に浸透させるための文化講座、子ども向けワークショップなどの事業を行っている。これら事業を実施しているCCA北九州を支援するもの。	フェロシッププログラムの受講者数	6人 (H23年度)	目標 6 人 6 人	実績 5 人 5 人	達成率 83.3 % 83.3 %	5人 (H32年度)	45,000	44,719	54,945	8,150	課長 0.10 人	順調	CCA北九州のメイン事業であるフェロシッププログラムでは、昨年度と同様に受講生5名を維持することができた。 市民対象の公開事業については、参加者数が目標にはわずかに届かなかったものの、昨年度実績を大きく上回る結果となった。 以上より、若手アーティストの指導育成や、CCA北九州の活動の市民への浸透に一定の効果があったと判断し、事業評価を「順調」と判断。			
	CCA北九州事業参加者人数	2,122人 (H23年度)	目標 2,200 人 2,200 人	実績 1,692 人 2,037 人	達成率 76.9 % 92.6 %	1,800人 (H32年度)	係長 0.70 人 職員 0.00 人													
42	子どもノンフィクション文学賞	文学館	「ノンフィクション」というジャンルの作品を書くことで、子どもたちが人間や社会への関心をもつ契機となり、思考能力や人間としての成長を促すことを目的に、全国の小中学生を対象に創設した文学賞。	応募総数	570件 (H27年度)	目標 1,000 件 1,000 件	実績 1,202 件 713 件	達成率 120.2 % 71.3 %	1,000件 (H30年度)	12,502	9,137	9,324	9,300	課長 0.20 人 係長 0.40 人 職員 0.40 人	順調	応募者の多い学校からの応募が減ったことなどにより目標は下回ったが、応募作品の内容は選考委員からも一定の評価をいただけており、「順調」と判断。				

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施													【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					H29年度		H28年度		人件費 (目安)		H29年度				H31年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値 (基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
43	林芙美子文学賞	文学館	文学館	<p>「放浪記」、「浮雲」などの作品で知られ、特に短編の名手として評価の高い林芙美子の名を冠する文学賞。</p> <p>多くの文学者、作家を輩出した北九州市の豊かな文化的土壌を全国に発信するとともに、北九州市文化振興計画の重要な柱である「人材育成」に寄与することを目的とする。</p>	「林芙美子文学賞」作品応募数	1,602件 (H26年度)	目標	1,000 件	700 件	500件 (H30年度)	16,000	10,502	12,613	5,825	課長	0.05 人	順調	芥川賞などの選考対象としても取り上げられやすいよう原稿枚数を増加した結果、作品応募数は減少したものの、力量を持った書き手に絞り込まれ、選考委員からも一定の評価をいただいていることから「順調」と判断。		
							実績	628 件	484 件						係長	0.30 人				
達成率	62.8 %	69.1 %	職員	0.30 人																
44	「合唱の街づくり」推進事業	文化企画課	文化企画課	<p>市民の歌声があふれる「合唱の街・北九州」の実現に向けて、子どもたちからシニア世代まで幅広い年代の多くの市民が、合唱する側や聴いて楽しむ側として参加するまちづくりを進めていく。</p>	合唱関連事業における歌い手としての参加者	682人 (H27年度)	目標	1,000 人	1,200 人	900人 (H30年度)	12,000	9,647	8,844	7,150	課長	0.10 人	順調	合唱が盛んな本市の素地を活かし、合唱関連の様々な事業を行った。歌い手としての参加者は減少したが、来場者数は増加となったほか、高齢者向けの合唱事業を実施するなど、新たな分野への取り組みを進めることができた。これにより、本市の文化振興に大きく寄与したと判断し、「順調」と判断。		
							実績	1,304 人	976 人						係長	0.30 人				
							達成率	130.4 %	81.3 %						職員	0.40 人				

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度		H28年度		人件費(目安)		H29年度			H31年度予算要求に向けた施策の方向性				
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価	局施策評価の理由及び課題		
Ⅲ-2-(2)-⑤ 文化芸術によるまちづくり	45	創造都市推進事業	文化企画課	国内外へ「文化創造都市」としての本市の都市ブランドを発信するため、「北九州市アーツディレクター会」を開催するとともに「東アジア文化都市」の開催地誘致等に取り組む。	2020年東京大会に向けた文化プログラムの認証件数	—	目標	実績	達成率	40件(H31年度)	—	6,533	—	18,000	課長	0.50人	順調	アーツディレクター会議を2回開催し、東アジア文化都市事業誘致等に向けて取り組むことができたため「順調」と判断。	2020年東アジア文化都市事業の開催に向けて、国内外へ「文化創造都市」としての本市の都市ブランドを発信し、市民のシビック・プライドの醸成につなげる。さらなる漫画文化の普及及び海外との連携強化を図るため「北九州国際漫画大賞」のPR強化を図る。映像製作誘致強化関連事業については、引き続きアジアを中心に海外作品の誘致等に積極的に取り組み、「映画の街・北九州」という都市ブランドを国内外に広く発信していく。			
	46	北九州市漫画ミュージアム普及事業	漫画ミュージアム事務局	北九州市漫画ミュージアムにおいて、常設展示の充実・企画展・イベント等の開催を通じて漫画文化の普及を目指す。	漫画ミュージアム年間入場者数	83,161人(H27年度)	目標	実績	達成率	10万人/年	71,050	67,512	59,752	44,000	課長	1.00人				順調	年間入場者数は目標を下回ったものの、開館5周年を記念した本市ゆかり作家のオリジナル展を予定どおり実施できたことから、「順調」と判断。	文学サロンについては、引き続き「文学の街・北九州」発信するため、地元商店街や大学生と協力して、「北九州文化サロン」を拠点とした取り組みを進めていく。松永文庫、清張記念館については、来館者目標達成に向けて、企画を充実させる。
	47	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献(直接経済効果)	100,000千円(H21年度)	目標	実績	達成率	500,000千円(H30年度以降毎年度)	56,388	54,331	57,280	36,100	課長	0.40人						
48	北九州文学サロン管理運営事業(旧・文学の街・北九州発信事業)	文化企画課	女性俳句の草分けである杉田久女・橋本多佳子などのPR・顕彰に取り組むとともに、「北九州文学サロン」を拠点として、点在する文学的素材やさまざまな文化資源・文化的取組みをつなげる仕組みづくりを行う。	「北九州文学サロン」の来館者数	—	目標	実績	達成率	39,000人(H29~31年度)	12,000	13,378	22,026	6,400	課長	0.10人	大変順調	年間を通し、複数のイベントを計画・実施することで、目標値を大いに上回る入館者数を達成する事ができたため、「大変順調」と判断。					

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施													【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H29年度		H28年度		人件費(目安)		H29年度				H31年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
49		松永文庫企画事業	文化企画課	映画・芸能資料館「松永文庫」における企画展示・イベントの積極的な開催を通じて、映画文化の振興、「映画の街・北九州」の情報発信に取り組む。	年間来館者数	89,317人(H26年度)	目標 10万人 実績 9万人 達成率 90.0%	9万人 88.9%	10万人/年	9,000	8,924	6,500	4,150	課長 0.10人 係長 0.30人 職員 0.00人	順調	年間来館者数の目標は達成できなかったが、9割程度の実績であることから、「順調」と判断。				
50		松本清張記念館研究センター・普及事業	松本清張記念館事務局	松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業の実施や研究誌を発行する。また、松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を実施する。 さらに、企画展の開催や講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行う。	松本清張記念館の入館者数	58,187人(H22年度)	目標 前年度(46,278人)比増 48,404人 実績 47,205人 達成率 104.6%	前年度比増 47,205人 97.5%	前年度比増(毎年度)	13,418	11,930	11,761	23,250	課長 0.50人 係長 1.00人 職員 1.00人	順調	入館者数、企画展の満足度ともに概ね目標を達成しているため、「順調」と判断。				
51		児童文学の顕彰事業	文化企画課	本市ゆかりの児童文学を顕彰することを目的に、資料や情報資源を集約した場を設けて継続した調査・研究・普及していく拠点とする。	顕彰することを目的とした場の整備	—	目標 計画策定 図面作成 実績 計画策定 図面作成 達成率 —	90%以上(毎年度) 85% 94.4%	完成(H30年度)	19,600	9,967	2,782	6,400	課長 0.10人 係長 0.30人 職員 0.30人	順調	本市ゆかりの児童文学を顕彰する場として、平成30年度に開設する子ども図書館の一角に、顕彰コーナーを設置するための図面作成を行い、計画通り整備が進んでいることから、「順調」と判断。				

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度		H28年度		H29年度		H29年度				H31年度予算要求に向けた施策の方向性		
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価		局施策評価の理由及び課題	
Ⅲ-2-(3)-① 誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり	52	市民体育祭	スポーツ振興課	「市民皆スポーツ」をモットーに、スポーツ・レクリエーションの普及振興を図り、市民の健康で明るい市民生活に寄与するため、市内全域で各種大会や行事を開催。	市民体育祭選手参加者数	30,367人(H26年度)	目標 30,000人 実績 27,974人 達成率 93.2%	30,000人 31,058人 103.5%	28,000人(H30年度以降毎年)	8,500	8,500	8,500	4,650	課長 0.10人 係長 0.20人 職員 0.20人	順調	目標を上回る参加者数となっており、「順調」と判断。					
	53	生涯スポーツ振興事業	スポーツ振興課	生涯スポーツの普及・振興のため、各区においてスポーツ教室、ニュースポーツ体験会などを開催。	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	12,371人(H26年度)	目標 12,600人 実績 17,280人 達成率 137.1%	12,600人 18,127人 143.9%	42,480人(H28~30年度)	20,279	19,732	19,251	990	課長 0.01人 係長 0.05人 職員 0.05人	大変順調	各区こどもまつりと同時開催することにより、目標を上回る参加者数となっており、「大変順調」と判断。					
	54	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	スポーツ振興課	地域住民の自主的な運営により、身近な地域で様々なスポーツに親しむことのできる総合型地域スポーツクラブの育成・支援に取り組む。	総合型地域スポーツクラブの会員数	1,800人(H26年度)	目標 2,900人 実績 2,318人 達成率 79.9%	3,000人 2,418人 80.6%	H32年度までに4,000人	3,779	3,455	3,455	2,325	課長 0.05人 係長 0.10人 職員 0.10人	順調	会員数の目標値には達していないが、市内の総合型地域スポーツクラブが一堂に集まり、子どもから大人まで参加する大運動会である「スポーツファンタジア」(H30.3.11開催)において多くの参加者(549名)がある等、クラブ間の交流が図られていることから、「順調」と判断。	【評価理由】 「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進するため、各事業において設定した成果指標の目標を概ね達成しており、「順調」と判断。				「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進するために、市民に身近なスポーツ大会の開催から、プロアスリートの育成、生涯スポーツの普及・振興など、幅広く事業を展開していく。ラグビーワールドカップ2019については、ウェールズ代表のキャンプの成功に向けて、ハード・ソフト両面の充実や交流事業実施等による市民の機運醸成を図る。
	55	夢・スポーツ振興事業	スポーツ振興課	2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、国際・全国大会で活躍する選手を育成するため、ジュニア世代がトップアスリートや指導者から直接指導を受ける講習会等を実施する。	教室・強化講習会等の実施	—	目標 5種目以上 実績 8種目 達成率 160.0%	5種目以上 10種目 200.0%	毎年度5種目以上(H31年度まで)	8,000	7,196	5,825	6,305	課長 0.02人 係長 0.24人 職員 0.49人	大変順調	強化講習会等の実施種目(目標:5種目、実績:10種目)、選手強化事業参加者数が目標を大幅に上回っており、「大変順調」と判断。	【課題】 「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」において、目玉事業のひとつである「北九州マラソン」を継続開催するとともに、より満足度の高い大会となるように工夫をしていく必要がある。				2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会については、誘致対象国へのキャンプ地誘致活動を継続・強化させるとともに、本市のホストタウン相手国であるタイ王国とは、卓球とテコンドーのキャンプが決定しており、引き続き同国との交流事業を推進していく。その他各種大規模大会の誘致についても引き続き実施していく。また、ミクニワールドスタジアム北九州を活用するなど、「見る」スポーツの更なる振興を図っていく。
	56	北九州マラソン開催事業	スポーツ振興課	・コース:北九州市役所前~東田地区~戸畑駅前~東港~門司港~北九州国際会議場前 ・種目及び参加人数 マラソン:11,000名、ベアリレーマラソン:150組300名、ファンラン(3km又は5km):1,000名	マラソン大会開催による経済波及効果	10.5億円(H25年度)	目標 11.5億円 実績 — 達成率 —	11.5億円 集計中	11.5億円(H30年度)	104,458	104,266	101,961	64,750	課長 1.50人 係長 2.50人 職員 3.00人	大変順調	ランナー募集の申込数は、定員拡大後も依然定員の2倍以上を保っている。また、78あるランニング対象の大会の中でベストテンを維持している。加えて、多くのボランティアと途切れることのない沿道からの応援により、大変な盛り上がりを見せている。以上のことから「大変順調」と判断。					
					インターネットでのマラソン大会全国評価ランキング(参加者7,000人以上の大会を対象)	9位(H28年度)	目標 1位 実績 9位 達成率 —	1位 7位	1位(H31年度)												

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善																					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H29年度		H28年度		H27年度		人件費(目安)		H29年度			H31年度予算要求に向けた施策の方向性												
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題														
Ⅲ-2-(3)-② スポーツを通したにぎわいづくり	57	国際大会・全国大会等スポーツ開催	スポーツ振興課	市内での国際大会等の開催により、「みる」スポーツの機会の拡大を図り、多くの市民のスポーツへの関心の向上及び個々の競技力の向上等につなげる。	国際・全国大会等の開催数	目標	26	回	27	回	30回(H32年度)	3,650	3,750	3,700	2,615	課長	0.01	人	順調	国際・全国大会等の開催数、大型スポーツイベント(自主事業)の参加人数について、ともに目標を達成できたことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 「スポーツを通したにぎわいづくり」のため、本市のシンボルチームである「ギラヴァンツ北九州」の支援や、「ラグビーワールドカップ2019」及び「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」のキャンプ地誘致活動等、各種大規模大会の誘致を実施しており、各事業で設定した目標を概ね達成しているため、「順調」と判断。	ラグビーワールドカップ2019及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地誘致活動を継続・活発化させるとともに、その他各種大規模大会の誘致についても引き続き実施していく。 また、ミクニワールドスタジアム北九州を活用するなど、「見る」スポーツの更なる振興を図っていく。										
						実績	26	回	28	回														3,000人(H26年度)	3,251	人	3,051	人	3,000人(毎年度)	108.4%	101.7%	0.20	職員
						達成率	100.0%	103.7%																									
58	ギラヴァンツ北九州支援事業	スポーツ振興課	本市のシンボルチームである「ギラヴァンツ北九州」を支援するため、ホームゲーム開催経費や遠征費の一部を補助。	ギラヴァンツ北九州の市民認知度	目標	90%	90%	90%(毎年度)	60,000	60,000	60,000	3,075	課長	0.05	人	順調	ギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数が目標を上回ったため、「順調」と判断。	順調	【課題】 「ギラヴァンツ北九州」主催試合の平均入場者数や「スポーツ観戦率」が目標に届いていないことから、今後もミクニワールドスタジアム北九州を活用するなど、「見る」スポーツの更なる振興を図る必要がある。 また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会について、国単位でのキャンプ地誘致を実現させるため、積極的な誘致活動を推進する必要がある。														
					実績	83%	82%													3,622人(H26年度)	3,224	人	5,939	人	7,000人(H30年度以降毎年度)	71.6%	118.8%	0.20	職員				
					達成率	92.2%	91.1%																										
59	ホームタウン推進事業	スポーツ振興課	本市をホームタウン・準ホームタウンとする、「ギラヴァンツ北九州」や「塚本プレイザーズ」「福岡ソフトバンクホークス」等の市民観戦事業や、体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施。	スポーツ観戦率	目標	40%	40%	40%(H32年度)	64,450	58,978	62,680	6,575	課長	0.05	人	順調	スポーツ観戦率は目標に届かなかったが、ギラヴァンツのホームゲームでは入場者数が平成28年度より増えていることや、北九州市民球場でのソフトバンクホークス公式戦では平均入場者数が定員の9割超で良好に推移していることから、「順調」と判断。	順調	スポーツ観戦率は目標に届かなかったが、ギラヴァンツのホームゲームでは入場者数が平成28年度より増えていることや、北九州市民球場でのソフトバンクホークス公式戦では平均入場者数が定員の9割超で良好に推移していることから、「順調」と判断。														
					実績	27%	27%													4,500	5,000	3,224	5,939	7,000	71.6%	118.8%	0.20	職員					
					達成率	67.5%	67.5%																										
60	大規模国際大会誘致関係事業	国際スポーツ大会推進室	生涯スポーツの振興やまちの賑わい創りに繋がる大規模国際大会の試合会場、及びラグビーワールドカップ2019や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地を本市に誘致すること、並びに誘致前後のスポーツ交流や文化交流等へと繋げることを目的として、誘致プロモーションの展開や官民一体となった「誘致委員会」による積極的な活動を行う。	ラグビーワールドカップ2019及び2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるキャンプ地誘致数	目標	1ヶ国	1	1ヶ国又は1競技以上(H31年度)	71,950	62,879	29,805	54,000	課長	1.00	人	順調	ラグビーワールドカップ2019及び2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるキャンプ地誘致数について中期目標を達成していること、国際大会や全国大会等の開催件数が目標値に達していることから「順調」と判断。	順調	ラグビーワールドカップ2019及び2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるキャンプ地誘致数について中期目標を達成していること、国際大会や全国大会等の開催件数が目標値に達していることから「順調」と判断。														
					実績	4件	3													4	3	133.3%	100.0%	3.00	職員								
					達成率	133.3%	100.0%																										

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施				【Check】 評価 / 【Action】 改善														
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度		H28年度		人件費(目安)		H29年度				H31年度予算要求に向けた 施策の方向性	
					指標名等	現状値 (基準値)	H28年度	H29年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の理由及び課題
	61	北九州スタジアム維持管理事業	スポーツ振興課	北九州スタジアムは、都心部に人が集まり、にぎわいあふれる北九州市の創出を目指し、Jリーグやラグビートップリーグなどの試合、小中高生のサッカー・ラグビー大会、グラウンド・ゴルフ大会、子どもたちへの芝生開放などに加え、まちのにぎわいを生み出すイベントの開催など、市民に夢と感動を提供できる施設である。施設の適切な維持管理・運営を実施することで、「みる」スポーツの機会提供の充実を図り、スポーツを通じたまちのにぎわいを生み出す。	「みる」スポーツの機会提供の充実(グラウンドの年間利用日数)	—	目標 100 日	実績 115 日	100日 (毎年度)	102,355	95,955	—	2,750	課長 0.05 人	係長 0.09 人	職員 0.17 人	順調	Jリーグやラグビートップリーグなどスポーツの利用に加え、子ども達によるダンスや芝生体験、ウォーキング大会など様々な形で利用があり、にぎわい創出に寄与できた。グラウンドの年間利用日数は目標を達成することができたため、「順調」と判断。		
Ⅲ-3-(1)-① 市民主体の地域づくりの促進	62	地域総括補助金	地域振興課	各地域団体が連携・協力し、まちづくり協議会を中心に地域が一体となった地域づくりを促進するため、これまでに各市各局が事業ごとに地域団体に交付していた補助金を可能な限り一本化し、まちづくり協議会に交付する。	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数	130団体 (H26年度)	目標 134 団体	実績 133 団体	137団体 (H35年度)	389,826	324,012	341,555	3,825	課長 0.05 人	係長 0.10 人	職員 0.30 人	順調	補助金の導入団体数は、概ね目標を達成していることから「順調」と判断。	【評価理由】 地域カルテフォローアップ事業を実施したまちづくり協議会の数は目標値に届かなかったものの、市内全体を対象としている地域総括補助金の交付は前年並みに行われていることから、「順調」と判断。	引き続き、地域が一体となった住民主体の地域づくり・まちづくりを促進するため、まちづくり協議会や、地域で様々な取り組みを行う各種地域団体等に対し、「地域総括補助金」の交付や、各種支援事業などの地域のニーズに応じた施策を展開する。
	63	住民主体の地域づくりの促進	地域振興課	まちづくり協議会の活性化を図るため、地域課題解決のアイデア等を盛り込んだ「地域カルテ」の作成や、地域カルテに基づく活動を支援するフォローアップ事業を行うとともに、「地域づくりマネジメント研修」を開催し、住民主体の地域づくりを促進する。	地域カルテフォローアップ事業を実施したまちづくり協議会数	—	目標 10 団体	実績 7 団体	住民主体の新たな地域づくりが活発に行われている状態	5,726	3,524	3,722	3,575	課長 0.05 人	係長 0.15 人	職員 0.20 人	やや遅れ	地域カルテフォローアップ事業は、主に前年度にカルテ事業を実施した地域を対象として、課題解決に向けて主体的に取り組んでいただく事業であり、地域の選定にあたっては、実施体制が整った地域から順次実施することとしている。 平成29年度については、カルテ事業を各区隔年で実施するよう方針転換したため、対象地域が減り、目標を下回ったことから「やや遅れ」と判断。	【課題】 地域が抱える課題や、その解決に向けた取り組みの内容は様々であり統一的な施策による支援が困難であるが、他の事業局や区役所コミュニティ支援課等と連携しながら、地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、住民主体の地域づくりに努める必要がある。	
Ⅲ-3-(1)-② 地域コミュニティ施設の活用・運営	64	市民センターの充実	地域振興課	市民センターの管理運営を円滑・適正に行うため、公募により多様な人材を市民センター館長として採用し、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行う。また、市民センターを拠点とした地域づくりを推進するため、未整備校区に市民(サブ)センターを整備し、老朽化対策やバリアフリー化を図り計画的な改修を行う。	市民センター1館当たりの利用者数	41千人 (H27年度)	目標 42 千人	実績 41 千人	42千人 (毎年度)	2,274,383	2,205,624	2,087,750	46,250	課長 1.00 人	係長 1.00 人	職員 3.30 人	順調	市民センターからの情報発信を進めた結果、利用者数やコミュニティ活動の参加人数がほぼ目標を達成していることから、「順調」と判断。	【評価理由】 市民センター1館あたりの利用者数は前年度実績と同程度であることから、引き続き地域活動が活発に行われており、「順調」と判断。 【課題】 今後も、市民センターを市民が安心して利用できるよう、老朽化対策やバリアフリー化等ハード面の整備とともに、市民センター館長や職員の能力向上など、ソフト面の充実も図っていくことが必要である。	引き続き、市民センターを拠点とした地域づくりを促進するため、老朽化対策やバリアフリー化等ハード面を整備するとともに、館長及び市民センター職員の能力向上を図る研修や、タイムリーな情報発信等ソフト面の充実にも努め、利用者の増加を図る。
						2,084千人 (H27年度)	目標 2,200 千人	実績 2,133 千人	2,200千人 (毎年度)					目標 2,200 千人						

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度		H28年度		H27年度		人件費(目安)		H29年度				H31年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題		
Ⅲ-3-(1)-③ 自治会・町内会への加入促進	65	自治会・町内会活性化の促進	地域振興課	自治会と連携しながら、加入率向上や組織・活動の見直し及び人材育成など新たな課題への対応につながる様々な事業に取り組み、自治会・町内会の活性化を図る。	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合	目標	85 %	85 %	85% (毎年度)	36,872	30,483	33,165	4,095	課長	0.03 人	順調	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合、地域づくり活動への参加者の割合については、双方とも昨年度実績を下回っているが、目標値に近い結果となっているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 自治会・町内会の加入促進や活性化に繋がる広報・研修については、市自治会総連合会と連携しながら継続的に取り組んでいる。「地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合」「地域づくり活動への参加者の割合」は前年度実績をそれぞれ下回っているが、目標値に近い結果となったことから「順調」と判断。 【課題】 世代に応じた働きかけや、マンション等の自治会加入促進に向けた取組みなどにより、自治会・町内会の活性化に努めていく必要がある。	自治会・町内会を取り巻く課題を解決し活性化を促進するために、マンション等の管理会社等の関係者に積極的に働きかけていくほか、引き続き地域コミュニティの重要性や自治会の必要性について幅広く理解を求めることに力を入れていく。 また、地域でリーダーシップを発揮する人材や地域活動の担い手育成支援を積極的にを行い、自治会・町内会の加入促進や活性化を図っていく。	
						実績	84.4 %	81.0 %													達成率
Ⅲ-3-(2)-① NPO、ボランティア活動の支援	66	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数(累計)	目標	75 法人	90 法人	105法人 (H30年度)	20,137	18,588	18,445	21,450	課長	0.30 人	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者数が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 新規設立NPO法人数(累計)や補助交付事業件数(累計)等の成果指標は概ね達成できたため、「順調」と判断。 【課題】 さらなる市民活動の支援によってNPO・ボランティア活動参加者の掘り起こしにつなげていく必要がある。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。	
						実績	73 法人	88 法人													達成率
	67	NPO公益活動支援事業	市民活動推進課	市民活動の更なる促進を支援するため、NPO等が専門性を発揮して行う活動に対し、事業費の一部を補助する。	補助交付事業件数(累計)	目標	74 件	80 件	86件 (H30年度)	2,489	1,845	2,035	3,275	課長	0.10 人	順調	補助交付事業件数及び成果発表会の参加人数が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 協働件数が目標を達成したことから「順調」と判断。 【課題】 参加団体へのフォローアップ等を行い、団体間の協働事業の立ち上げを支援する。	多様な主体による協働を推進するため、NPO、企業等との交流会を引き続き実施し、団体間の協働を支援する。	
						実績	80 件	86 件													達成率
Ⅲ-3-(2)-② NPO、企業、研究機関などとの連携の構築	68	多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	目標	5 件	5 件	5件 (H30年度)	4,698	2,607	4,110	2,470	課長	0.03 人	順調	NPOと企業・地域・大学との交流会等を通して、団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を達成したことから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 協働件数が目標を達成したことから「順調」と判断。 【課題】 参加団体へのフォローアップ等を行い、団体間の協働事業の立ち上げを支援する。	多様な主体による協働を推進するため、NPO、企業等との交流会を引き続き実施し、団体間の協働を支援する。	
						実績	5 件	5 件													達成率

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度		H28年度		人件費(目安)		H29年度				H31年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	
Ⅲ-3-(3)-① 市民参画と協働のための仕組みづくり	69	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。 また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計)	203人(H22年度)	目標 1,000人 実績 1,275人 達成率 127.5%	1,250人 1,555人 124.4%	1,500人(H30年度)	1,962	964	1,132	7,550	課長 0.20人 係長 0.30人	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 協働についての研修の参加者数、協働件数ともに目標を達成したことから「順調」と判断。 【課題】 多様な主体による協働をさらに推進するため、各団体間のネットワークをさらに構築・拡大する必要がある。	協働への理解を深めるセミナーや協働事例の発信、各団体間の自主的な協働の側面支援に引き続き取り組んでいく。
	70	多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	5件(H28年度)	目標 5件 実績 5件 達成率 100.0%	5件 5件 100.0%	5件(H30年度)	4,698	2,607	4,110	2,470	課長 0.03人 係長 0.10人 職員 0.15人	順調	NPOと企業・地域・大学との交流会等を通して、団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を達成したことから「順調」と判断。			
Ⅲ-3-(3)-② 市民との協働を推進できる市役所づくり	71	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数(累計)	18法人(H24年度)	目標 75法人 実績 73法人 達成率 97.3%	90法人 88法人 97.8%	105法人(H30年度)	20,137	18,588	18,445	21,450	課長 0.30人 係長 0.30人 職員 2.00人	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者数が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各事業の目標を概ね達成しており、市民との協働を推進しているとして「順調」と判断。 【課題】 市民活動の担い手の育成や、協働に対する啓発をさらに推進する必要がある。	市民との協働を推進するため、協働意識向上のための研修、セミナー等の充実、NPO・市民活動に関する情報提供に取り組む。
	72	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。 また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計)	203人(H22年度)	目標 1,000人 実績 1,275人 達成率 127.5%	1,250人 1,555人 124.4%	1,500人(H30年度)	1,962	964	1,132	7,550	課長 0.20人 係長 0.30人 職員 0.30人	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数が目標を達成しているため「順調」と判断。			

平成29年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																		
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H29年度		H28年度		H27年度		H29年度			H31年度予算要求に向けた施策の方向性		
					指標名等	現状値(基準値)	H28年度	H29年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価	局施策評価の理由及び課題
IV-2-(2)-②	73	市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業	市民活動推進課	環境未来都市計画が掲げる目標を達成するため、NPOなどの提案団体と市が協働して取り組む事業に経費の一部を補助。	補助交付事業件数(累計)	6件(H24年度)	25件	31件	36件(H30年度)	5,206	4,780	4,202	3,275	課長	0.10人	順調	目標を達成しており、NPOの専門性が活かされた先進的な事業が実施されているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 NPO法人の専門性を活用した事業を展開しており、その活動を支える補助交付事業の件数が目標を達成しているため「順調」と判断。 【課題】 行政と対等に協働できるNPOが少数であること。	ソーシャルビジネスの創出を図るための事業であり、今後とも市との協働の理解浸透を図りながら、NPOによる新たなビジネス機会創出のための支援を継続していく。
実績	27件	32件						係長	0.10人											
達成率	108.0%	103.2%						職員	0.15人											
IV-4-(1)-②	74	文学館普及研究費	文学館	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。	入館者数(単位:人)	10,741人(H23年度)	22,000人	22,000人	22,000人(H30年度)	18,624	18,628	17,668	12,625	課長	0.50人	順調	入館者数が目標を上回ったため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 両館とも入館者数目標を概ね達成していることから「順調」と判断。 【課題】 更なる入館者数の増加を目指し、より集客力のあるイベントや企画展を企画・開催する必要がある。	入館者数増加に結びつくイベント・企画展に取り組む。
	実績	24,743人	22,536人						係長	0.50人										
達成率	112.5%	102.4%						職員	0.25人											
IV-4-(1)-②	75	松本清張記念館研究センター・普及事業	松本清張記念館事務局	松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業の実施や研究誌を発行する。また、松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を実施する。 さらに、企画展の開催や講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行う。	松本清張記念館の入館者数	58,187人(H22年度)	前年度(46,278人)比増	前年度比増	前年度比増(毎年度)	13,418	11,930	11,761	23,250	課長	0.50人	順調	入館者数、企画展の満足度ともに概ね目標を達成しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 両館とも入館者数目標を概ね達成していることから「順調」と判断。 【課題】 更なる入館者数の増加を目指し、より集客力のあるイベントや企画展を企画・開催する必要がある。	入館者数増加に結びつくイベント・企画展に取り組む。
	実績	48,404人	47,205人						係長	1.00人										
達成率	104.6%	97.5%						職員	1.00人											
				企画展入場者の満足度	85%(H22年度)	90%	90%	90%以上(毎年度)								大変順調	撮影隊の市内滞在に伴う地域経済への貢献、北九州フィルム・コミッションの市民への認知度ともに、目標値を大幅に上回ったことから「大変順調」と判断。	大変順調	【評価理由】 「北九州フィルムコミッションの認知度」は年々高くなっており、都市イメージの向上と経済効果に繋がっていることから「大変順調」と判断。 【課題】 国内外に本市の魅力を発信できる作品を誘致するため、ロケ候補地の情報等を広く収集する必要がある。	映像製作誘致強化関連事業については、引き続きアジアを中心とする海外作品の誘致等に積極的に取り組み、「映画の街・北九州」という都市ブランドを国内外に広く発信していく。
	実績	88%	85%																	
達成率	97.8%	94.4%																		
IV-4-(2)-③	76	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。 また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドの発信により、街の賑わいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献(直接経済効果)	100,000千円(H21年度)	110,000千円	110,000千円	500,000千円(H30年度以降毎年度)	56,388	54,331	57,280	36,100	課長	0.40人	大変順調	撮影隊の市内滞在に伴う地域経済への貢献、北九州フィルム・コミッションの市民への認知度ともに、目標値を大幅に上回ったことから「大変順調」と判断。	大変順調	【評価理由】 「北九州フィルムコミッションの認知度」は年々高くなっており、都市イメージの向上と経済効果に繋がっていることから「大変順調」と判断。 【課題】 国内外に本市の魅力を発信できる作品を誘致するため、ロケ候補地の情報等を広く収集する必要がある。	映像製作誘致強化関連事業については、引き続きアジアを中心とする海外作品の誘致等に積極的に取り組み、「映画の街・北九州」という都市ブランドを国内外に広く発信していく。
実績	408,148千円	519,944千円						係長	1.80人											
達成率	371.0%	472.7%						職員	1.80人											
				北九州フィルム・コミッションの市民への認知度	59.8%(H25年度)	65.0%	75.0%	80.0%(H30年度)								順調	目標を達成しており、NPOの専門性がいかされた先進的な事業が実施されているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 補助交付件数が目標を達成しており「順調」と判断。 【課題】 行政と対等に協働できるNPOが少数であること。	協働の理解浸透を図る研修や事例紹介を通じ、NPOによる環境未来都市を推進するための事業を支援する。
	実績	72.6%	88.1%						係長	0.10人										
達成率	111.7%	117.5%						職員	0.15人											
VI-1-(1)-①	77	市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業	市民活動推進課	環境未来都市計画が掲げる目標を達成するため、NPOなどの提案団体と市が協働して取り組む事業に経費の一部を補助。	補助交付事業件数(累計)	6件(H24年度)	25件	31件	36件(H30年度)	5,206	4,780	4,202	3,275	課長	0.10人	順調	目標を達成しており、NPOの専門性がいかされた先進的な事業が実施されているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 補助交付件数が目標を達成しており「順調」と判断。 【課題】 行政と対等に協働できるNPOが少数であること。	協働の理解浸透を図る研修や事例紹介を通じ、NPOによる環境未来都市を推進するための事業を支援する。
実績	27件	32件						係長	0.10人											
達成率	108.0%	103.2%						職員	0.15人											